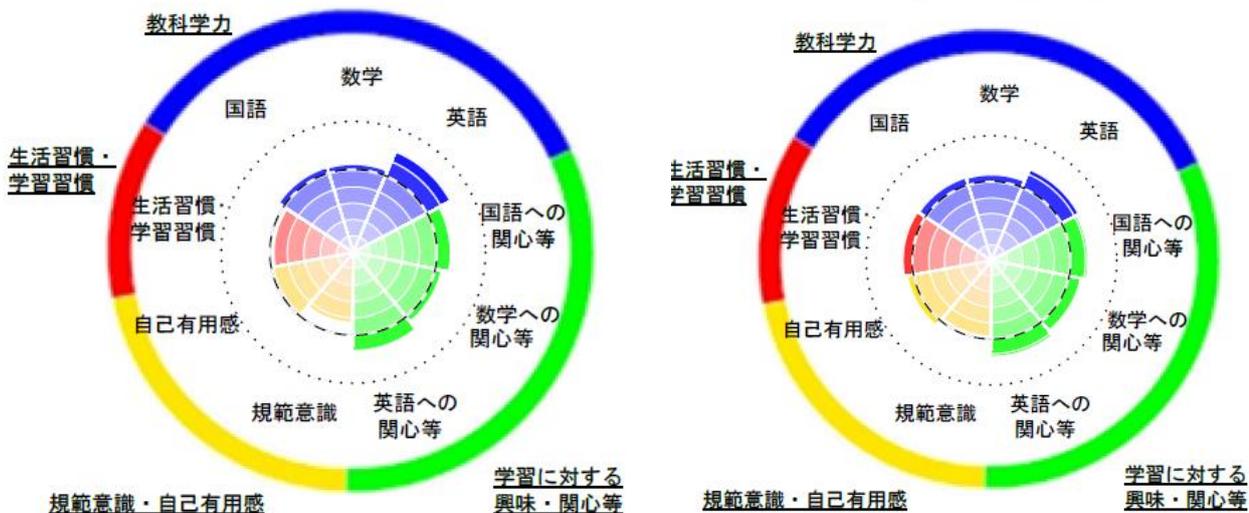


# 平成31年度 全国学力・学習状況調査報告

日吉台西中学校

生徒質問紙（全国基準）

生徒質問紙（神奈川県基準）



※ 上のグラフの点線の円は、全国・神奈川県の前平均正答率を示し、色の扇形の大きさは、本校の生徒の前正答率を示している。

《 学力調査および生徒質問紙の結果のグラフより 》

	本校 (%)	神奈川県 (%)	全国 (%)
国語	76	73	72.8
数学	63	59	59.8
英語	67	59	56.0
英語（話すこと）	31	—	30.8

学力調査については、国語、数学、英語、英語「話すこと」、全て全国・神奈川県の前生徒率を上回っている。

国語では、学習指導要領の領域別の平均正答率は、県・全国を上回っているが、細かく問題別にみると、出題の趣旨が「話し合いの話題や方向を捉えて自分の意見を持つ」の問題には、本校59.8%に対して県は61.4%と若干下回っている。出題の趣旨が「話し合いの方向を捉える」は県よりも本校が5.6%も高い。また、生徒質問「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」の回答では、【当てはまる、どちらかといえば、当てはまる】では、県・全国を下回っている。自分の意見を持つことのために、言語活動などを取り入れて、スキルを向上するように支援していくことが必要である。

数学では、学習指導要領の領域別の3領域の平均正答率は、県・全国を上回っているが、資料活用では、県・全国よりも下回っている。確率や調査統計の考え方の学習をもう一度見直す必要がある。

英語では、学習指導要領の領域別の平均正答率は、県・全国を上回っている。特に「書くこと」に関しては、全国平均率を12%も上回っている。また、細かく問題別にみると、リスニングの問題で2問ほど、県・全国の前平均を若干下回っていた。「聞く能力」を高められるよう支援していくことが必要である。

学習習慣において、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問では、「している、どちらかといえばしている」では、県・全国を上回っている。家庭での学習習慣が身につけていることがうかがえる。

課題解決においては、「1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問では、「している、どちらかといえばしている」では、県・全国を上回っている。自分で課題を解決しようとする生徒が増えてきたと思われる。